

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 8 月 4 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2170102525		
法人名	有限会社 かがやき		
事業所名	グループホーム 百花		
所在地	岐阜市前一色1丁目4番18号 (電話) 058-249-3051		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年7月20日	評価確定日	平成20年8月18日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路沿いにあり、車の往来は多いが、建物前面に駐車場を設けるなど有効な活用がされており、玄関を同じくして1階が通所介護、2階がグループホームとなっている。開設当初は今あるホームの場所から少し離れていたが、利用者も職員もそのまま移り、管理者と計画作成担当者が一緒になって地域に開かれたホームをめざしている。利用者1人ひとりに目が届く丁寧な介護は、利用者や家族の信頼や満足度も高い。法人代表者は毎日欠かさず来所し、無償のマッサージを行うなど利用者の健康管理に一役買い、利用者との信頼関係を密にしている。また、かかりつけ医との十分な連携により、適切な医療を提供している。利用者の明るい表情と落ち着いた行動から職員の日頃の対応が推し量られる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 前回の改善課題は個人のプライバシーに対する配慮であったが、ノート式の来訪者名簿をカード式に改善し、そのカードは見やすく整理されている。苦情相談窓口については、ホームの管理者以外に外部の窓口も重要事項説明書か契約書に明示することが改善課題として残されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 管理者・計画作成担当者・職員は自己評価を自らのケアの点検として取り組んでいる。前回の改善課題には改善シートを作成し、改善の過程も大切にしながら取り組んできた。また、評価報告書は誰もが閲覧できる場所に提示してある。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議は2ヶ月毎に行われている。ホームの現状を詳細に報告し、そこで出された検討事項や要望は、月1回の職員会議で話し合われている。外からの声を少しでもケアの向上に活用しようとする姿勢である。また、議事録も毎回作成され、職員に回覧もされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 玄関に苦情相談のポスターが掲示され、意見箱も気兼ねなく投書できる場所に設置してあるが、特に意見も出てきていない。毎月の支払いは振込みではなく、家族にはホームへ持ってきてもらうことを基本にし、月1回は顔を合わせて話をする機会をつくっている。医療に関しての相談は、直接かかりつけ医と面談し、不安にならないよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 日活会にホームの催し物の案内を回覧してもらうなど、地域への情報発信に余念がない。また、今年は夏休みを利用し、小学生の体験学習の場として交流を行う計画がある。併設の通所介護で行われるレクリエーションへの参加も、地域との話題に触れる良い機会になっている。災害時には地域の協力が得られるようになっており、日頃から地域の人と顔なじみの関係づくりに努力している。

## 【情報提供票より】 (平成 20 年 7 月 1 日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 24 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 5.47 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	23,000~ 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合償却の有無	有(退去時)
食材料費	朝食	350 円	昼食 550 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要 (平成 20 年 7 月 1 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 76.7 歳	最低 46 歳	最高 90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	松田内科クリニック 伊塚歯科医院
---------	------------------

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初は今あるホームの場所から少し離れていたが、利用者も職員もそのまま移り、地域の中で受け入れられ、開かれたホームになることを常に念頭に置き、それが理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自立支援や地域とのつながりを軸とした理念の実践は、徐々に利用者の高齢化が進んできている状況にはあるが、管理者や職員の努力で取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会にホームの催し物の案内を回覧してもらうなど、地域への情報発信に余念がない。また、今年は夏休みを利用し、小学生の体験学習の場として交流を行う計画がある。併設の通所介護利用者とのふれあいも地域の話題に触れる良い機会になっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・計画作成担当者・職員は自己評価を自らのケアの点検として取り組んでいる。前回の改善課題には改善シートを作成し、改善の過程も大切にし、取り組んできた。また、評価報告書は誰もが閲覧できる場所に提示してある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に行われている。ホームの現状を詳細に報告し、そこで出された検討事項や要望は月1回の職員会議で話し合い、外からの声を少しでもケアの向上に活用しようとする姿勢が見て取れる。議事録もしっかり残されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は運営等の相談に、市の担当窓口までまめに足を運び、顔なじみの関係を大切にしている。障害者を受け入れる体制づくりにも助言をもらいながら実現している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月毎に発行されているホーム便りには写真をふんだんに掲載し、利用者の暮らし振りが映像で伝えられている。その便りには個々の近況や職員のこともコメントにしている。金銭報告も怠らない。これまでのホーム便りはファイルされ閲覧できる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には苦情相談のポスターが掲示され、意見箱も気兼ねなく投書できる場所に設置してあるが、特に意見も出てきていない。毎月の支払いは振込みではなくホームへ持ってきてもらうことにしており、家族と顔を合わせて話をする機会と捉えている。	○	前回の改善課題になっていたが、契約書・重要事項説明書に記載されている苦情相談窓口が管理者のみとなっているので、公的、第三者等外部の窓口も明示されることを、今回も挙げておきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初からの管理者と計画作成担当者は通常の業務シフトの要員に入っていないので、離職者の替わりを援助できる体制になっている。在職期間の長い職員が多く、利用者に安定したケアが提供できている。ホーム便りの中で職員紹介の顔写真を掲載することで家族には理解を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	身体拘束廃止、リスクマネジメント、福祉用具、住宅改修、リハビリなど業務に必要な研修を受講し、内部研修として全職員に周知させている。また、利用者の抱えている疾病について医師や看護師から具体的な指導を受けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームが一緒になって運営推進会議を行っていた時期があり、他ホームとの交流は刺激になっていたが、今は単独での開催となり、交流が途絶えてしまっている。その時のネットワークがまた活かさないかとの思いはあるが、実現には至っていない。	○	他ホームとの意見交換や、職員と利用者も含めた交流の機会が有効であったことを十分認識しているので、その再開が待たれる。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の通所介護サービスを利用しながら2階のホームの雰囲気にも馴染めるよう、行き来をしながら利用者の不安を和らげている。計画作成担当者は通所介護とホームの両方に携っており、利用者の状況把握の橋渡し役となり、家族との信頼関係構築にも心掛けている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	車イス利用者の移動を足腰のしっかりしている利用者が支援するなど、利用者同士の支えあいの関係が育っている。40代の障害者と90代の高齢者が一緒になってトランプや脳とトレーニングを楽しんでおり、そこに職員も加わり、どの利用者も表情が明るい。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	墓参り、法事、一時帰宅など本人の願いを実現するために家族の協力も求め、1人ひとりの暮らし方に丁寧に向き合っている。職員は本人のつぶやいた何気ない言葉を拾って日常生活記録に書き留めることを意識して介護に取り組んでいる。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	開設当初からの計画作成担当者は利用者1人ひとりの生活歴を丁寧に把握し、月1回の職員会議で「本人はどうしたいのか、どうしたら本人らしく暮らせるか」を基本に話し合いを重ね、家族の思いも含めた利用者にとっての介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画を見直しているが、状況に応じた計画の変更は、常に、柔軟に、かつ、迅速に、行われている。体調の変化には、医師や看護師との連携も計画に盛り込んでいる。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族による通院送迎が困難な時は職員の協力がある。代表者は毎日昼休みに来所し、無償のマッサージを行うなど、利用者の健康管理に一役買っている。また、ホームから障害者作業所に通勤している利用者もいる。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の説明があり、家族の希望により月2回の往診が行われている。かかりつけ医は往診日以外でも利用者のちょっとした変化にも駆けつけ対応してくれる。職員とかかりつけ医の間には、いつでも医療に関する相談ができる関係ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時の指針が作成されており、重度化の兆候が現れ始めたときに、かかりつけ医を中心に、今後の家族の意向を確認する検討会が設けられる。看護師との24時間体制が整備され、家族が納得のいくケア方針を定め、全職員で共有する体制がとれている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	車イス利用者も含め、利用者全員がトイレでの排泄をめざし、その声掛けや誘導には十分な配慮を持って行われている。職員が個人情報に関する誓約書を提出することで確認と認識ができています。ノート式来訪者名簿はプライバシー保護のためカード式に改善された。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目覚めてからゆっくり時間を掛けて離床したほうが良い人、食事に1時間以上かかるが自分で食べる人など、個々のペースを妨げることなく、個別援助を基本にしている。化粧をし、身だしなみにも個性が表れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が作る食事は彩りもよく工夫され、食材も豊富に活用されている。利用者と職員と一緒に同じものを食べ、共通の話題で楽しい食事時間となっている。晩酌も利用者が適量をわきまえているので楽しめている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏場はシャワー浴を取り入れ、毎日でも利用でき、冬場はゆっくり入浴ができるなど利用者の希望、状況に合わせた対応で入浴が行われている。男性の入浴支援は同性介護にはなっていないが、十分な気配りで対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カレンダーの日付を管理する人、花瓶の水換えをする人、掃除好きの人には軽いモップを用意して床掃除をお願いするなど、役割を生活の中に取り入れている。月1回の外食は利用者の楽しみになっている。1泊旅行は困難になったが、日帰り旅行は継続している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場の散歩は控えているが、出来るだけ周辺の散歩や地域の図書館、喫茶店、大型スーパーへの買い物と外出の機会は多くある。外出の困難な利用者にも体調をみながら数分でも外気にふれてもらう努力をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階にあるホームは出入口がすぐ階段であり、外は交通量の多い道路に面しており、外出傾向のある利用者のために止むを得ず施錠をしていたが、その利用者が入院中で訪問時は施錠されていなかった。鍵をかけないケアの意義は管理者と職員が理解をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを作成し、消防署の協力による避難訓練が年1回実施されている。利用者に関する情報が消防署と警察署に提出され地域との連携もとれている。棚には転倒防止の処置がされてある。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事で便秘を予防し、出来るだけ多くの食品群を摂取する献立になっている。お茶のポットがテーブルの上に置いてあり、自由に水分補給が出来るようにしてある。カロリーを昼食に一番多くし、体重管理もしている。	○	事前に作成された献立表はなく、その日の調理担当職員が冷蔵庫等の食材からその日の献立を決めている。その能力には感心させられるが、40代から90代まで巾のある利用者の適切な栄養と量であるかのチェックと計画的な取り組みも試みられたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロアは明るく、居心地の良い空間となっており、利用者は居室に閉じこもることなく、中央にある食卓テーブルの周りやソファでゆったりと過ごしている。新聞や雑誌はいつでも手にすることが出来る。トイレの位置と食事の場所は近いが、空気清浄機の設置やこまめな窓の開放でにおいが気になることはなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の馴染みの物品を持ち込んでもらうよう家族に伝えている。持ち込みの少ない利用者には、今の生活の様子から職員が意識してその人らしい居室になるように工夫している。また、居室の温度調整にも気を付けている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。